

叙任

○明治十六年九月廿九日  
特旨ヲ以テ位一級被選候事  
特旨ヲ以テ位一級被選候事  
敍從二位  
敍從三位  
正三位 豊岡 隨資  
正三位 三室戸 雄光  
正三位 萩岡 隨資  
正三位 三室戸 雄光

明治十六年十月五日  
時事新報  
當地米國來信拔萃（鐵道ト仮名ノ事）  
判事昌谷武久  
書記小村千里  
上田壽太郎  
庸熙

次第ニ仮名流行ノ文化ト爲リテ人々ノ口々言フガマヽニ  
仮名ナ綴リ如何ナル不學ノ凡俗ニテモ唯僅ニ四十八文字  
ヲ解スレバ何事ニテモ心ニ思フ所ヲ紙面ニ吐露スルノ便  
利ナ得ルニモ至ラソ國ノ爲ニ祝ス可キトナレニ小生ノ所  
見ニテ爰ニ路ニ横ハルノ大困難ト申スハ彼ノ國訛ノ一事

内官頭及  
せられた  
夫より掛  
親しく天  
を召させ  
課官史并  
者へ夫々

右大竹庄次右衛門カ児徒衆被告事件ニ對シ明治十六年二月二十一日福島輕罪裁判所松支廳ニ於テ裁判セシ頃末ハ「司法警察官及ヒ豫審掛ノ訊問ニ對スル汝」被告ニカ任意ノ白狀本部則亦城平六方井ニ現場ニ於テ差押タル証據物件等ニ依リ又ハ共犯人ノ陳述ナ參照スレハ赤城中六瓜生血七等カ多衆ノ村民ヲ體察シ宇田成一等ノ勾留ヒフ

東京熊谷間ノ鐵道モ既ニ落成シ又信州越後ノ地方ニ於テ  
モ有志者ノ發起ニテ信越鐵道會社設立ノ出願近キニ在  
内シトノ二報是ナリ抑モ鐵道ノ功用ハ今更此地ヨリ喋々  
不申上トモ郷國諸産ニア飽マズマ詳悉セラル、所ナレバ  
多辯ナ費サズ候得其近日當地識者ノ説ナ聞キ又様々ノ事  
情ナ觀察スルニ鐵道ノ便利ハ有形ノ品物ナ交通シテ物價  
ヲ平均スルノナラニ無形ノ富吾ナモ運送ノ其事力

スルハ誠ニ好シト雖に我日本國人ハ之ヲ吐露スルニ地方  
ニ從テ各其音ヲ一樣ニセズクワソノン、カソノン（觀音）  
ヤシンハシ、ジシンバンニ地震番、自身番、愛知地方ノ飲マ  
ズ食ハズハ飯令ヒ之ヲ推量スルモ長崎近傍ニテ荷桶ヲ擔  
フテ往來ヲ歩スル者ヲタンゴ、イノーテ、ハボーサルクト  
云フガ如キニ至テハ甚タ解シ難ク或ハ奥州ノ主從二人ハ  
東京ノ四十二人ト聞ユルヤモ計ル可ラズ斯ル有様ノ體ニ

○行幸  
軍兵學校 時三十分  
れたり

ノト確ス云々刑法第百三十七條犯徒多衆ヲ囲聚シテ  
官廳ニ喧鬧シ云々其囲聚ニ應シ爆動シテ勢ヲ助ケタル者  
ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ依リ同  
第六十九條ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルヲ以  
テ重禁錮三年ニ處断セリ

得セシムルモノ、如シ方今世界中ノ立國ニ於テ其國中人民ノ方言即チ諺訛ケナマリノ最モ少ナクシテ殆ト絶無トモ可申ハ當合衆國ニシテ英國コレニ亞キ佛蘭西獨逸ノ如キモ次第ニ國訛ノ不便利ヲ輕クスル其風潮ハ正シク鐵道敷設ノ年月ノ久シキト其線路ノ年々增長スル割合ニ准シテ違フコナシト云フ亦是レ鐵道功用中ノ一奇相トモ可申歟

シテ日本國中東西南北ノ人々が唯四十八ノ仮名ナ知リ其心思ノ所ヲ口ニ言フガマ、文ニ續リタバ其文章ヲ見テ相互ニ解スル能ハザルノ患ハアルマジキヤ小生が遠國ニ居ナガラ嗚呼ケマシクモ掛念スル所ニ候固ヨリ仮名主義ノ諸先生ニ於アハ往々辭書ヲ編纂シスベルリンブツクチ著ハレ又日本語學校ヲモ設立シテ全國ノ語音語法ヲ

○明宮  
○日本風  
居る七八  
題憲法を  
は日本に

ハ一件書類ニ徵スルヨ庄次石衛門ハ車道開鑿事件出訴ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタル事實アリテ更ニ暴動ノ爲メ特派委員ノ任ヲ受ケタルノ事實ト々原音渡書ハ訴訟ト暴動ト事体ノ殊別ナシ拘ハラス出訴ノ特派委員ヲ誤認シテ暴動ノ特派委員ト爲シ云々庄次石衛門カ所爲ハ法律ニ於テ罰スヘキ者ニ非ス因テ治罪法第四百二十九條ノ成規従ヒ原裁判ヲ破壊シ更ニ相當ノ裁判アヘナ請フト云フ

リト雖ニ國訛ノ舊達ハ實ニ甚シキモノナロ僅ニ一線ノ水  
一脉ノ山ヲ隔テ、モ其趣ノ異ナルヲ見ル可シ况ヤ西國ト  
東陸ト北山ト南海ト相去ヘノ遠キモノニ於テオヤ仮ニ外  
國ノ人ヲシテ各其語ル所ヲ聞カシメタラバ東西南北ノ人  
ヲ目シラ同一ノ日本國人トハ思ハサル程ノコナラン小生  
ガ幼年在郷ノキ故老ノ話ニ嘗テ薩摩ノ人ト奥州ノ人ト相  
逢フニ言語相通セズ困却ノ折柄其一名ノ頓智コ<sup>タツチ</sup>テ謠ノ調

ヲ識者ノ吉ニ都ア人ノ教育ハ學校外不文ノ教育コソ却テ  
有刀ナルモノナリト承ハリ候トニテ其不文ノ教育トハ他  
ニアラズ運輸交通ノ便利ニシテ疑モナキモノナリ左レバ  
仮名主義ノ諸先生モ今後ハ尙一步ヲ進メテ大ニ鐵道敷設  
ノ一事ニ盡力セフレ日本國中ノ言語ヲ東西南北津々浦々  
コマデ運搬交通シテ各地ノ方言方訛ナ一掃シ日本ノ言語  
ヲ平均シテ其全國ニ普通ナルト亞米利加語ノ亞米利加ニ  
普通ナルガ如クニシテ仮名ノ文章モ始メテ實用ヲ爲ス可  
ノミ辭書ノ編纂學校ノ設立ノ如キハ其功用精密ナリト

中佐ゴ  
危難あると  
威武は太沽  
遊て中原に  
載せしダム  
の或支那へ  
トサンノ  
東京近辺

小トヘ乃ナ何等ノ白狀ナルヤ本部及現場ニ於テ差押ヘタ  
證據物件トハ乃ナ如何ナルモノナルヤ其犯人ノ陳述ト  
乃ナ如何ナル人ノ如何ナル陳述ナリシヤ其判文中之チ  
明セサレハ之ヲ知ルニ由キノミナラス一件書類中ニ  
スルモ又斯ク認知シ得ヘキモノアルナシ要ヘルニ被  
ソノ所爲ハ道路開墾不服ノ出訴事件ニ付其特派委員トナ  
シ事實ヘ明白ナルモ明治十五年十一月二十八日八時

シタリトノヲチ聞ケリ塞ガ左モアリシヲナフン否ナ今日  
ノ實際モ左ルヲナラン我國土ノ狭キ割合ニ拘ハラズ斯ク  
モ言語ノ不通不自由ナルトハ抑モ何故ゾヤ數千年來交通  
不便ノ實耻ニシテ薩輿人ノ一話ヘ正ニ其趣ヲ寫シ出シタ  
ル寫眞書ト云フモ可ナラン

雖に又緩漫ノ恐ナキニ非ズ鐵道ノ敷設ハ則チ動ノ最モ活潑迅速ナルモノナレハ諸先生ハ其緩急兩様ヲ併セテ利用セラル、中ニモ先ツ活潑ノ事業ニ着手セラレント小生ノ願フ所ナリ云々

東京近頃は佛國の採  
ヒリ又安東  
ルメンボル  
ル獲され  
シテし佛艦の  
氏の指揮  
講和の風  
が黒旗兵

アルナ是サルナリ此事實ハ法律ニ於テ罰スヘキノ所爲  
非キルニ原裁判所カ刑法第百三十七條ニ問ヒ重禁錮ニ  
斷シタル即ナ治罪法第四百三十五條ノ所謂法律ニ於テ  
セサルノ所爲ニ對シ刑ヲ吉渡シタルモノトス因テ同條  
二項ニ據リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ裁判スル  
ノ如シ

ヨリ東京コテ先輩ノ諸先生ガ日本ノ文章ニ漢字ヲ用ルノ  
不便ナルチ論シラレ又人ノ口ニスル言葉ト筆ニスル文ト  
全ク語法ナ異ニスルモ不利ナレバ一切漢字ヲ廢シテ我國  
固有ノ仮名文字ヲ用キ人ノ口ニ言フガマ、コ之ヲ仮名文  
ニ綴レバ文章即ナ古語ナリ古語即ナ文ナ成スノ便利ナリ  
トテ其主義ヲ研究討論スル爲ヨベロは文書いろは會又ハ

向島お於ける佛國の位地は甚た危懼の状を呈しけ一ハス  
人は益活潑の勢を現せりと○又最近の報にハ佛國の地位  
ハ今方さむ不測に迫りたりとありたり  
○十月九日午后一時廿分神戸發(不通延着) 露國公使今  
解纏上京せり

講和の腹  
が黒旗兵

無理由ノ如ク大竹庄次右衛門ヲ被告事件ヘ法律ノ罰ス  
キモノニ非ス即ナ治罪法第三百五十八條ニ法トリ無罪  
ナニ放免ス

トア其主義ナ研究討論スル爲ニハ文書いろは會又ハ  
クなのともナド云フ種々ノ結社アリがソ謂來聲成者甚多  
タゞナ筆性ナム由ヨリ有聲ニテ文氣也過歩シテ失ハ達ニ

行幸 豊て記。奉りし如く 惣上には昨十日午前九時  
所分赤坂後楽園御内門御所東以徳大寺宮内神社にて其事

ると第二  
ン氏が馬  
しるるだ  
る音を傳